

(様式2)

平成29年度 英語が好きになる学校づくり事業 取り組み報告書

事務所名	中部教育事務所	学校名	花巻市立南城中学校	TEL	0198-23-4146
------	---------	-----	-----------	-----	--------------

主体的に学ぶ生徒の育成 ー生徒の意欲を引き出す指導と教科部会・環境整備ー

**【ねらい】**

- ・生徒の興味・関心を引き出し、主体的に英語学習に取り組ませることを目標とした授業改善
- ・教科部会での指導方法の共有化と学習環境の整備

**【具体的な取組】**

1 授業改善

(1) 全校で取り組む「主体的に学ぶ生徒の育成」(昨年度からの研究主題)

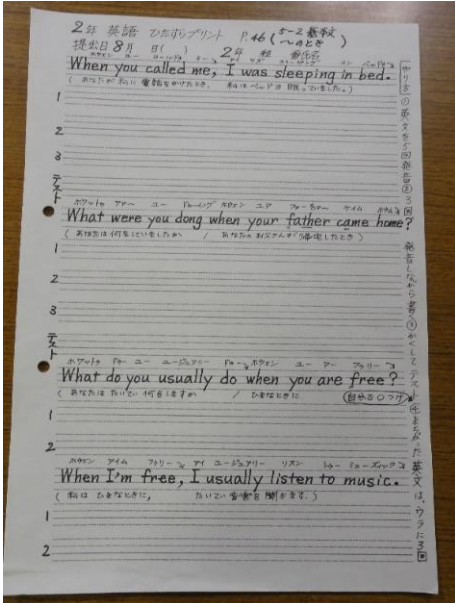
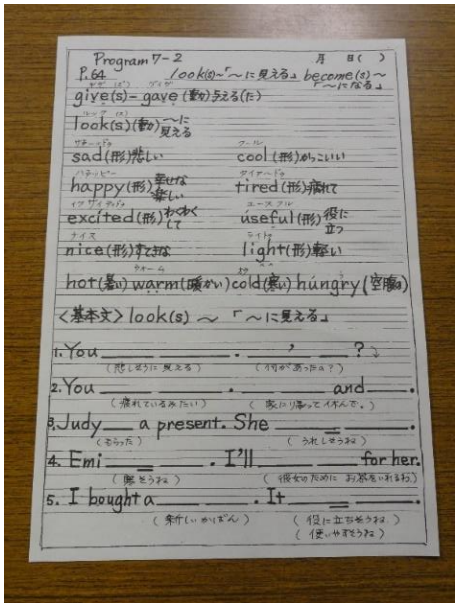
本校英語科では、「主体的に学ぶ生徒」を「英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒」「仲間と協力して、課題を解決できる生徒」と設定した。

授業改善の柱として次の3つの項目をあげている。

- ・学習課題の明確化と、課題解決の「見通し」の持たせ方  
「何が、どのようにできればよいか」という学習課題の明示と「何を、どのような方法で学習していくか」の見通しを持たせること。
- ・「学び合い活動」の工夫(男女交互の座席配置⇒全校で実施)  
ペアやグループで新出文型の定着を図る活動(対話練習、インタビュー活動)を設定した。また、意見文の交流では、ほかの生徒の発表を聞いて自分の作文を見直すことにした。
- ・振り返りの工夫や家庭学習への意欲付け  
自分自身に関することをその日の学習文型を用いて表現させ交流させた。また、定着のためのドリルは、授業の最後に配付しやり方をわからせた上で家庭学習とした。

(2) 繰り返しかつ継続的に実施することで定着を図る。「よく聞き、よくまね、よく話す」

- ・過去の諸テストの出題内容を英語科教員で把握し、確認した。それらを日々活用した。  
→「ひたすらプリント」、単語シート、テスト問題の作成などすべてに活かすことができた。
- ・授業の流れを毎時間板書した。ゴールを全員で確認し、過程に真剣に取り組む態度を育めた。



- ・2年では1年の、3年では2年の単語ドリルを実施した。(毎時間5分間の取り組み)
- ・長文ドリルに取り組みさせることで、長文問題に慣れさせることができた。

(2年には物語文、3年には入試対策用)

- ・「入試に出る蔵君」(3年高校入試対策用)や基礎文法定着ドリルの活用をする。
- ・「ひたすらプリント」の実施(振り返り)→それ1枚持ち帰れば、復習できるように作成した。
- ・単語シートの活用(導入時)→その場で覚える集中力を養う。
- ・辞典の活用。(同一の辞典を持たせ、全員でその都度確認する。)

(3) 楽しく覚える。

- ・「リズムで覚えよう」(全学年)の実施。(基礎事項をリズムによってリピートする。)
- ・英語の歌(全学年)1ヵ月に1曲、新曲を導入した。1年間で1回は、全学年同じ曲にチャレンジする。  
(全校で同じ曲が流れて、雰囲気が盛り上がる。)
- ・英語の歌に関わる映画のワンシーンを上映した。→希望生徒にはDVD貸出し  
(“We Are The World”, “Stand By Me”, 「天使にラブソングを」等)
- ・給食時の放送では、英語の歌や他学年が歌っている曲などを度々流してもらった。

**各学年の English Songs** (例)

月	1年	2年	3年
4月	Sing	Saturday Night	Have You Ever Seen The Rain?
5月	Sunday, Monday, Tuesday	I Will Follow Him	I Will Follow Him
6月	Hello, Goodbye	Stand By Me	Sugar Baby Love
7月	Please Mr. Postman	Vacation	Tie A Yellow Ribbon Round Ole Oak Tree
8月・9月	Beautiful Sunday	I Was Born To Love You	I Was Born To Love You
10月	Take Me Home, Country Roads	We Are The World	We Are The World
11月	Jingle Bells	Evony and Ivory	Evony and Ivory
12月	We Wish You A Merry Christmas	Last Christmas	Happy Christmas
	Silent Night	Story of My life	You Are Only Lonely
	Santa Claus Is Coming To Town	Can't Take My Eyes Off You	Happy Christmas
1月・2月	Stand By me	Day Dream Believer	未来へ
3月	Que Sera Sera	I'm In The Mood of Dancing	We Are The Champions

### 〔選曲の際、大事にしていること〕

- ① 3分前後の曲であること。
- ② 季節感を感じられるもの。
- ③ 既習文型、文法事項が入っているもの。
- ④ 全般に知れ渡っているもの（なじみの深い歌）。
- ⑤ 教師が好きな曲であること（熱く語ることができる曲）。
- ⑥ メッセージ性の高いもの。
- ⑦ 全体で合唱できるような楽曲、テンポ良くのれるもの。
- ⑧ 世界的な名曲であること。

（生徒からのリクエストに応えることもある。）



## 2 教科部会の実施

- ・担当部員は2名であるが、お互い持ち時数が多く、まとまった時間はなかなかとれないことが多い。従って10分休憩や昼休み等の短時間で意見交流をしてきた。特に、新単元に入るときやALT(NS)との授業前などに行うことを心掛けた。その中で、指導法についての情報交換や効果的な教材活用方法を模索し、共通実践してきた。
- ・補助教材の共有化を図った。そのことにより、資料作成の負担軽減、内容の吟味、方向性を統一した指導ができた。どの学年でも英語科としての共通の実践を積み重ねることができた。

## 3 学習環境の整備

- ・教室の英語標示・・・移動教室の際に特に意識するようにさせる。
- ・英語階段（単語から句へ）・・・重要単語や語句を読みながら、階段を上る。
- ・外国の地図ポスター、よく使う表現ポスター・・・「長方形って何ていうの？」のような疑問に答える。
- ・先輩の掲示物から学ぶ（優良作品の掲示）・・・南中祭（文化祭）作品作成への見本になる。良いものを参考にしながら、自分たちの作品を作成することができる。
- ・外国の絵本の展示・・・よく知っている有名作品を、英語で読むことに挑戦する。



## 【成果】

### 1 授業改善について

- ・ペアやグループ活動を授業に位置づけることによって、生徒が主体的に活動できるようになった。
- ・英語が苦手な生徒も、パートナーやグループ内の生徒の協力を得て、活動に取り組むことができた。
- ・過去の諸テストの出題傾向を把握することで、それを意識して指導することができた。  
また、単語シートやひたすらプリントに取り入れることで、生徒は自然に重要単語や重要文を練習することができ、定着につながった。
- ・単語は前学年のものを授業中にドリルで復習している。復習しているのは単語だけであるが、その単語が出てきた単元についても、想起しながら取り組むことができた。
- ・黒板に流れを掲示することで、課題が早く終わった生徒は次に進んでいく。そのことにより時間を有効に使い、どんどん先を見て学習を進めることができるようになってきた。
- ・「ひたすらプリント」を使って、学習したことをその日のうちに復習させることで、定着を図ることができた。どの生徒にもできる書く活動であり、積極的に取り組んでいる生徒が多い。
- ・リズムで楽しく覚えさせることで、小学校の英語活動からの連携がうまく図られ、スムーズに授業に臨むことができています。また、書くのが苦手な生徒でも、リズムにのせて学習すると楽しくでき、歌とリズムは全員が参加することができた。
- ・新曲を導入するときには、その歌ができた背景やメッセージについて理解させることが大切である。そうすることで、生徒は感情を込めて歌うことができるようになる。DVD等で映画の1シーンを見せたものについては、表現力豊かに歌うことができた。
- ・ペアや4人グループでの言語活動は、適宜実施することができた。仲間の英文から学ぶことができ、お互いを高め合うことができた。また、ある場面を想定しての会話では、臨場感を持って練習することができるようになってきた。

### 2 教科部会の実施について

- ・改めて教科部会の時間を設定しようとするのが難しいが、短時間でもよいと考えれば負担感が少なく、適宜交流することができた。
- ・少しのことで確認することで、お互いの指導実践につなげることができた。
- ・補助教材の共有化を図ることで、内容もさらに精査され、統一したものが活用でき、時間短縮につながった。

### 3 学習環境の整備について

- ・掲示物が増え、学校全体が英語にあふれるようにできた。生徒は休み時間など目についたときに声に出して読んでいたり、教師に「これはどういう意味ですか。」と聞いたり、英語に触れようとする雰囲気が出てきた。
- ・英語絵本は昔からなじみの深い作品が多く、薄い冊子であるため、読みやすく、手にとって読んでいる生徒が増えた。

### 4 まとめ

授業改善に重点をおいて取り組んだ結果、生徒が授業に楽しく取り組む様子が多く見られるようになった。特に英語の歌やリズムでの導入は英語学習の雰囲気作りにはかなり効果的であった。今後も楽しくそしてわかりやすく指導しながら、更なる定着を図っていきたい。